

事後評価 「陸・水圏物質循環実験調査」に関する調査研究

1. 研究の概要

青森県では六ヶ所村に再処理施設の整備が進められているが、この再処理施設の操業に伴い、当該施設より排出された放射性物質による影響を調査するため、陸・水圏実験施設を用いて放射性物質等の陸・水圏環境中での挙動、蓄積などを明らかにする予定である。

本5カ年計画では、予備試験調査を行い施設内に水圏および陸圏の生態系をモデルとした試験系を構築し維持管理するために必要な生物、設備に関わる各種条件を明らかにする。

3. 研究期間 平成12年度～平成16年度

4. 研究成果

閉鎖系水圏実験施設での水圏生態系に関する試験では、施設内にアマモを中心とした海草群落生態系を構築するために、アマモ育成方法を開発するとともにアマモ場における生物相、アマモの分解に関わる各種要件を明らかにした。また、施設の機能を調査し、生態系構築に必要な対策をとった。

閉鎖系陸圏実験施設での陸圏生態系に関する試験では、施設内に構築する陸域生態系を湿地のヨシ群落と決定し、生態系の構築と維持管理に必要な条件を明らかにした。また、施設の光環境、温度制御、降雨装置、霧発生装置、密閉性等の機能を調査しその条件を明らかにした。

5. 評価結果の概要

「研究員数が十分でない点および他組織との連携を積極的に図る必要がある点などは、今後の取り組みとして重要である。」の所見があった。

総合所見として、「本研究は世界でも類を見ない先進的な試みであり、その第1歩として着実に研究が進展し、所期の目的を達した点高く評価する。」との提言があった。

6. 対処方針

次期5カ年計画では、研究要員の確保と能力の発揮に努めるとともに、他組織との研究協力などの連携を前向きに推進し、調査目的の効率的な達成のため努力する。

以上